国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Press Release

平成 30 年 2 月 23 日
東北地方整備局

東北生態系ネットワーク推進協議会（第２回）開催

～伊豆沼・蕪栗沼の現地視察会も同日開催します～

○東北地方整備局では、広域的な生息域を持つ大型水鳥類などの生息環境を生態系ネットワークとして保全し、さらに地域の価値と魅力の発見・向上につなげるため、多様な主体が連携・協働する場として「東北生態系ネットワーク推進協議会」を平成２９年１２月に設置しました。
○第２回となる今回は、東北全体の基本計画、モデル地域での行動計画の枠組みなどについて協議を予定しています。
○当日は協議会に先立ち、大型水鳥類の飛来状況や六次産業化の取り組みなどの現状を把握するため、委員による現地視察会を開催します。

１．開催日時及び場所：平成３０年２月２７日（火）
【現地視察会】１２：１５～１５：２０
場所：伊豆沼、蕪栗沼など　※詳しくは別紙－１
【協　議　会】１５：３０～１７：３０
場所：宮城県大崎合同庁舎　１階　大会議室　※詳しくは別紙－２
（宮城県大崎市古川旭４丁目１－１）

２．主な議事：
（１）東北生態系ネットワーク基本計画（案）
（２）モデル地域の行動計画枠組み（案）
（３）今後の進め方

３．会議の公開及び一般傍聴について
・会議は原則として公開とします。
・報道関係者の席を用意しております。一般の方で会議の傍聴を希望される方は、会場の都合により席数に限りがありますので先着順とさせていただきます。
・現地視察会は委員が対象となりますが、報道関係者で同行を希望される方は事前にお申し込み下さい。

＜発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会、青森県政記者会、岩手県政記者クラブ、秋田県政記者会、山形県政記者クラブ、福島県政記者クラブ＞

＜問い合わせ先・お申し込み先＞
国土交通省　東北地方整備局
河川部　河川環境課　課　　長　平山（ひらやま）　孝信（たかのぶ）（内線 3651）
課長補佐　八木（やぎ）　恵里（えり）（内線 3652）
電話：(代)022-225-2171　ＦＡＸ：022-215-3754

現地視察のルート

別紙－１

大型水鳥類の飛来状況、六次産業化の取組など、モデル地域（北上川・鳴瀬川流域）の現状をご覧いただき、協議会にて生態系ネットワーク推進に資するご意見をいただくために行うものです。

※貸し切りバスでご案内します。

<報道関係者>で参加ご希望の方は**事前**にお申し込みください。希望があればバスに同乗も可能です。（座席に限りがありますので先着順とさせていただきます。）

<一般の方>のご参加はできませんのでご了承下さい。



視察時間や出発、到着時間は目安です。
当日の道路状況等により変更される可能性があります。

第2回　東北生態系ネットワーク推進協議会　会場位置図

別紙－２

N

古川駅

駅南口

古川駅東4丁目

古川駅南1丁目

古川旭1丁目

至　仙台

古川駅南2丁目

イオン古川店

古川旭2丁目

古川駅南3丁目

古川旭4丁目

会場：宮城県大崎合同庁舎（1階　大会議室）

〒989-6117 宮城県大崎市古川旭４丁目1－1

JR古川駅南口より協議会場まで徒歩約10分



宮城県大崎
合同庁舎

地理院地図

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製した物である。（承認番号　平29東複、第33号）

別紙－３

東北生態系ネットワーク推進協議会
設立趣旨

東北には個性に富む 12 水系の一級河川が流れ、その流域の多くの湖沼やため池などの水辺は、東北でなじみのあるガン類やハクチョウ類など、広域の水辺を行き来する大型水鳥類の中継地や越冬地等となっており、中にはラムサール条約湿地に登録された国際的に重要な地域も含まれているなど、豊かな自然環境が維持されています。

その一方で、国内最大のガン類の越冬地を形成している宮城県の北部地域等では、飛来した個体が過密状態にあることによる問題も懸念されています。さらに、より広域の生態系ネットワーク形成の視点からは、東北への飛来が近年相次いでいるコウノトリが安定して生息できる環境整備や、タンチョウの生息地分散行動計画に基づく東北への越冬地の拡大なども課題となっています。また、東北の宝とも言えるこれらの生きものや豊かな自然環境は、身近で当たり前の存在としてその価値や魅力を地域内外に十分に発信できていない面もあります。

こうした課題への対応には、広域の視点が重要であり、その推進力となる様々な主体による広域連携・協働が欠かせません。近年、国土形成計画等の行政計画に基づき、持続可能な国土形成に資する取組みとして生態系ネットワークの推進が掲げられ、生態系の広域的なつながりを示す大型水鳥類等を指標とした水辺環境の保全・再生や、その成果を活かした観光や農業等の地域振興の取組みが、全国各地で多様な主体の連携により進められています。

東北は全国規模の生態系ネットワーク形成の視点からも重要な役割を担うことから、今回、行政区域や分野を超えて多様な主体が広域で連携・協働する場として『東北生態系ネットワーク推進協議会』を設立し、東北全域を対象とした生態系ネットワーク形成に取り組むことといたしました。多くの人々の共感を得るための取組みのシンボルとしては、東北の自然の豊かさを象徴する大型水鳥類等の生きものを掲げ、河川を基軸とした豊かで健全な生態系による自然の恵みや価値に気付き、観光資源等として地域振興に持続的に活用することで、東北が潜在的に有する魅力の再発見やブランド力の向上を図っていきます。

平成 29 年 12 月 14 日

別紙－４

東北生態系ネットワーク推進協議会　委員名簿

平成 29 年 12 月 14 日現在

（順不同・敬称略）

	氏 名	所属･役職
有識者	東 信行	弘前大学 農学生命科学部 教授
	呉地 正行	日本雁を保護する会 会長
	佐々木 幹夫	八戸工業大学大学院 工学研究科 教授
	平山 健一	岩手大学名誉教授
	宮原 育子	宮城学院女子大学 現代ビジネス学部長
連携自治体首長	福島 弘芳	青森県つがる市 市長
	伊藤 康志	宮城県大崎市 市長
関係機関、企業等	渥美 雅裕	一般社団法人 東北地域づくり協会 理事長
	小野 晋	一般社団法人 東北経済連合会 常務理事
	久保 達也	一般社団法人 日本自動車連盟 東北本部 会員部 部長
	紺野 純一	一般社団法人 東北観光推進機構 専務理事 推進本部長
	今野 俊宏	株式会社 河北新報社 編集局長
関係行政機関	髙居 和弘	農林水産省 東北農政局 農村振興部 部長
	小澤 晴司	環境省 東北地方環境事務所 所長
	高村 裕平	国土交通省 東北地方整備局 河川部 部長

東北における河川を基軸とした生態系ネットワークの進め方（案）

別紙－５

1. 水辺の状況

現状

指標種（大型水鳥類）が主要水系の流域に飛来

［**マガン**］ 宮城県の北部地域は国内最大の越冬地



蕪栗沼（大崎市、登米市）



伊豆沼の周辺（栗原市）

※平成28年度に国内に飛来したマガンの9割（約 17 万羽）を宮城県内で確認

［**コウノトリ**］各水系に散発的に飛来

［**タンチョウ**］日本海側の水系を中心に散発的に飛来

環境保全上のニーズ

指標種の生息環境の保全

・過密状態にある渡り鳥の越冬地
※国内に飛来するマガンの**9割が宮城県の県北地域に集中**

［**マガン**］ 新たな生息環境の整備による越冬地の分散

［**コウノトリ**］ 飛来個体の定着・繁殖に向けた生息環境の改善
※「コウノトリ野生復帰グランドデザイン」（兵庫県）等との連携

［**タンチョウ**］ 過密状態にある北海道道東の地域個体群の分散
※「タンチョウ生息地分散行動計画」（環境省）との連携

・東北の湿地面積は**過去 100 年間で平均 55%減少**
※宮城県は 92%減少、青森県は 85%減少

出典：国土地理院（1999 年）湖沼湿原調査

2. 地域資源等の状況

現状

地域に魅力ある資源が眠っている

・豊かな自然や景観が身近に存在するが、存在や魅力が知られていない資源も多く存在。

渡り鳥の大群が見られる水辺



夜明けと共にガン類の大群が一斉に飛び立つ光景（蕪栗沼）

時折飛来する大型水鳥類



毎年のように東北に飛来するコウノトリ
※大型水鳥類は存在そのものがニュース性をもつ。写真は 2014 年5月に登米市に飛来したコウノトリ。

北上川を 200km 遡上するサケ





市街地を流れる川でサケの産卵が観察できる（盛岡市の中津川）

東日本大震災からの復興途上にある

・沿岸部の自治体は復興の途上にある。2020 年に復興・創生期間の目標年次を迎え、震災復興事業が区切りを迎える。

流域のニーズ

埋もれている資源の掘り起こし

・「東北の魅力」発信による国内外への認知度向上。
※東北6県のインバウンドは国内全体の約**2%**にとどまる。

・広域に点在する地域資源を活かす観光ルートが未開拓。
※点在する資源をつなぐ観光ルートの軸となる「河川」の活用

昔話に登場する風景（日本のふるさとの原風景）が各地に残る









自然に寄り添う農村の暮らしやたたずまいを身近に見られる

震災復興から自立した地域づくりへの転換

・人口の減少・高齢化への対応に加えて、復興後の東北圏の将来像を見据えた地域づくりが間もなく始まる。

河川を基軸とした生態系ネットワーク形成

東北を対象とした『基本計画（案）』の検討・策定

取組みの基本方針

1.生態系ネットワークの基盤となる良好な水辺の保全

・東北における河川を基軸とした広域の生態系ネットワークの形成に資する水辺環境の保全・再生

2.良好な水辺を活かした地域の魅力・価値の向上

・河川を基軸とした豊かで健全な生態系による自然の恵みや価値に気付き、観光資源等として地域振興に持続的に活用
※東北が潜在的に有する魅力の再発見やブランド力の向上

良好な水辺を活かした地域振興の例



修学旅行、インバウンド向けのエコツアー等の新たな目的地・立ち寄り地に



生きものと共生する良好な水辺が商品の付加価値に

協議会の目的 ※規約からの抜粋

第2条（目的）

東北の河川流域の多様な主体との連携・協働のもと、健全な生態系のシンボルとしての大型水鳥類等を指標とする、河川を基軸とした広域の生態系ネットワークの形成を通じて良好な水辺環境の保全・整備を進め、その成果を活かした地域の魅力向上や持続的可能な地域振興を図る。